

# カメムシ駆除に見る日本の農業の実情 農薬漬けの農業から決別を

稲作にはカメ虫駆除のために大量の農薬が散布されている。地域によっては空中散布をしているところもある。カメムシ駆除にはニコチノイド系農薬が使用されており、カメ虫は一匹たりとも殺さないといけないかのようだ。この農薬にはミツバチの大量死の原因という研究報告が相次いで発表され、環境や人への影響は計り知れない



カメムシ

先日訪問した水島営農組合さんの倉庫には米の選別機が置かれていた。自主流通米として出荷する際、米の品質を確保するためには不可欠なものらしい。この機械は米を投入すると、「カメムシ被害」「やけ米」「粃殻」「異物」「未熟米」などを検出して不良米を弾き出してくれる。米10kgから手のひら一杯くらいの量の不良米がはじきだされるそうだ。農協ではもっと大きな機械で高速選別しているそうだ。では、なぜカメムシ駆除のために大量の農薬が必要なのだろうか。もちろん、カメムシなどに食われれば、歩留まりは落ち、収量は減るが、農薬のコストを考えれば、使わない方が得策であり、これは農協の戦略としか思えない。

大豆についても、さまざまな害虫からの被害を防ぐために農薬が使われているそうだが、中でも大豆の表面に色がつくことがあり、農家は農薬を使わざるを得ないというお話を伺った。しかし、大豆の場合、ほとんどが味噌や醤油などの加工品に使われるので、豆に少々色がついていても、味に影響がなければ、あえて農薬を使う必要がないのではないだろうか。しかし、自分のところだけ、農薬を使わないでおこうと思っても、周りから苦情がくるという事情もあるようだ。

農協は営農指導をしているそうだが、農薬や肥料の使用がセットになっているとすれば、それはそれらを



買わせるシステムといってもよいのではないだろうか。また、農機具なども高額で、農家の経営を圧迫している。農業は農機具を初め、農薬や肥料などのコストを考えると、労多くして益の少ない、「割の合わない」職業になっていることがわかる。これでは、産業として後継者が育つはずがない。

最近、石川県では若い農業従事者が増えてきたが、その多くは有機農業、自然農業志向が強い。当会に野菜やお米を提供してくださる生産者はみなさん、環境や人に負荷のかからない農業を目指している。従来の農薬や化学肥料を多投する、農協にコントロールされた農業には魅力は感じられない。

何のために作っているのかわからない農業とは決別すべき時が来ている。

(文責：田村 和子)



コンバイン